

副団長ああ私のせいで…い、今助けます！

わ、私の事はいいから援軍を要請して

で、でも…

いいから行きなさい！



…こんな姿あの子には見せれない…

痛っ…痛覚…があるなんて

…まさか強制的に倫理コードを解除して

た、卵…そう言えば

助けた子達みんな孕んでたのって…

イヤっ離して!

ズル

ズル

ズル

ズル



あがああああつ!! 動かないでええええ...アアアアつ!!

(今は耐えるしか...早く助けに来て)



イヤだ…卵…入ってきた…

おおおおおおお！

こんなの…キ、キリト君！助けて…うあっ



お、おわった…の…

おお！卵が…割れて…熱いのが…広がって…
気持ち良い…んひひひひひ！
このまま…ダメダメ！
早くだしやないと…私…狂う…んっ



クルル
トロ…



ブル

ブル
ブル
ブル

ブル
ブル
ブル

今のうちに卵を出さないと
気が狂ってしまう...

はあ...あのモンスターは...
んっ卵を植え付けたら
...何処かに行つたみたい...

んうんんんんん
...はあはあ...出しても...
全然減らない...んんくっ!



は、挿入って…くるっ！
卵…割れちゃう…ひゅひゅこいひゅこい！！

こっちに来ないで
…何処かに行つてよ！
な…何…まさか入れる気なの…嫌っ！

クケケケケケケッ



あぁ…美味しそうなおちんちん
…舐めさせて…ちゅるるっちゅるるっ…

あっあっ…感じるッ！
モンスタージュースだしやれるの…



臭い...んっ...でも...
クセになるっ...んぶっ...
くくくくくくくくくくくくくくくく...

クケケケケッ!!

ん...ん...ん...でて...ッ!!

ん...ん...ん...



ひゅごお...オオオっ...
あひっ...まだいっぱい...
いりゅ...私...
こわしゃれるう...んひい

「数時間後」



副団長助けに…ひっ

おんほ…ひゅこおオッ
…らしゅきい…あへッ…

副団長から離れる！

クエツッ！クケケケケ！

アスナの元に援軍が来て程なくモンスターは全滅された

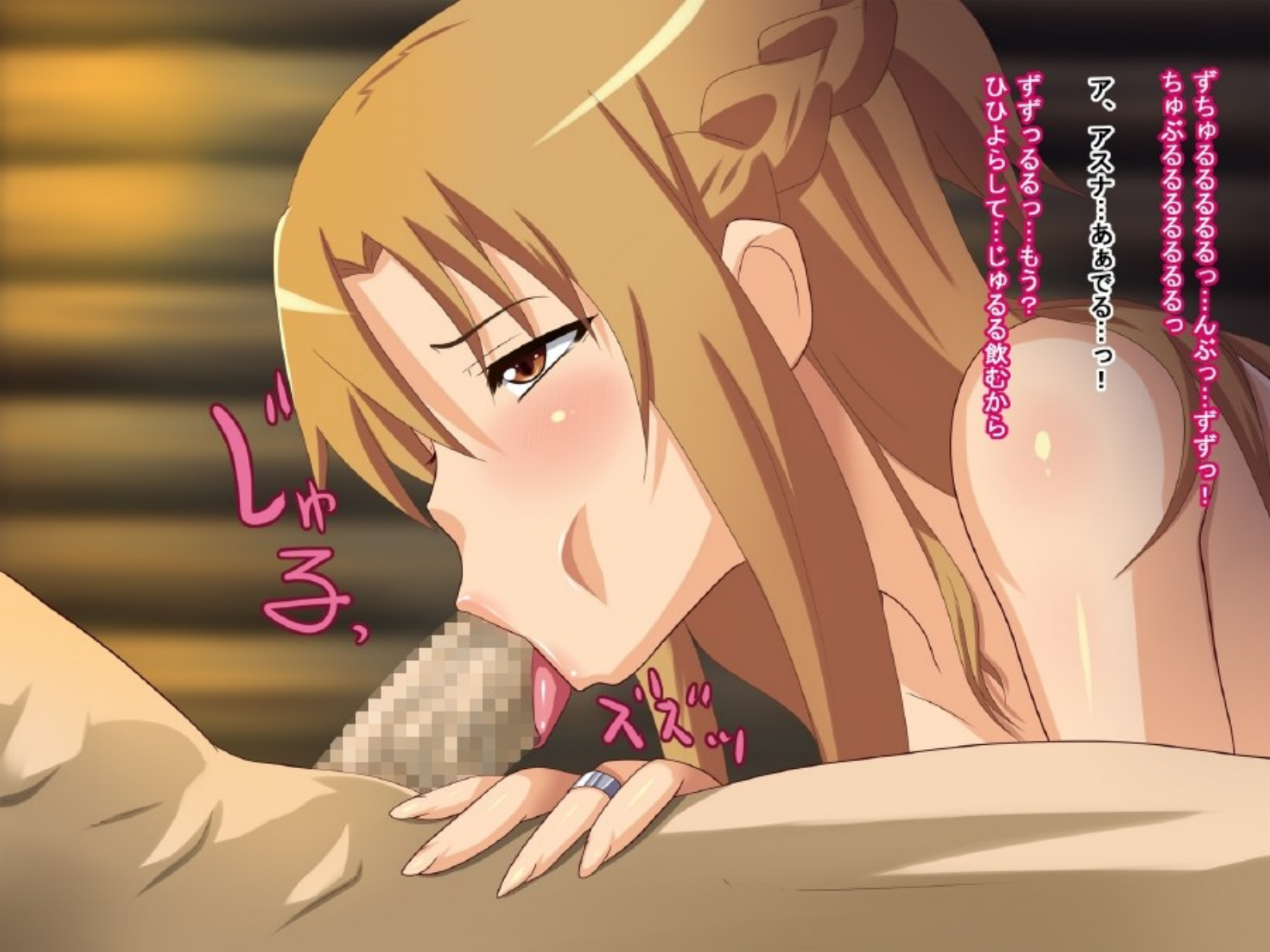
医務室で治療を受け私は火照る身体を引きずりながら
キリト君の待つ家に帰った

おおおいアスナ！
急にズボンを脱がすなよ

はあキリト君は黙って私に任せなさい

アスナ！帰って来てからおかしいぞ





しゅわん、

アスナ...

すずすず...
ひびひび...
あかあか...

ア、アスナ...あはは...

すずすず...
ちゅちゅ...
あはは...



んっすずすずすずすずすずちゅ

Amkano! 579

すずすず...すずすず...
すずすず...すずすず...

すずすず
すずすず

すずすず
すずすず

すずすず...
すずすず...



あん：精液美味しい…ぺろっ

アスナ：お前上手いな…
直ぐに射精ちやったよ

キリト君気持ち良かった？
ねえもう一回しゃぶらせて

む、無理だよ…すぐには勃起しないよ…

そう…「めんね…もう寝よっか

ハァ
ハァ

んっ
んっ

ドブ…

夜が更けた頃、部屋から女性のすすり泣くような声が聞こえてくる

「んんっ…キリト君…あんなのじゃダメなの…ひああああ」

-早朝-

ガタッと突然の物音にキリトは目を覚ます

「ふぁ～早いな…また任務か」

「そ、そうなの…また帰りが遅くなるね」

「ああ気をつけてな」

アスナが立ち止まっていた床は少し湿っていた

火照る身体を鎮める為にモンスター狩りを志願して森へと単独で来ていた

「やあー！こんなモンスターのせいで私は…」

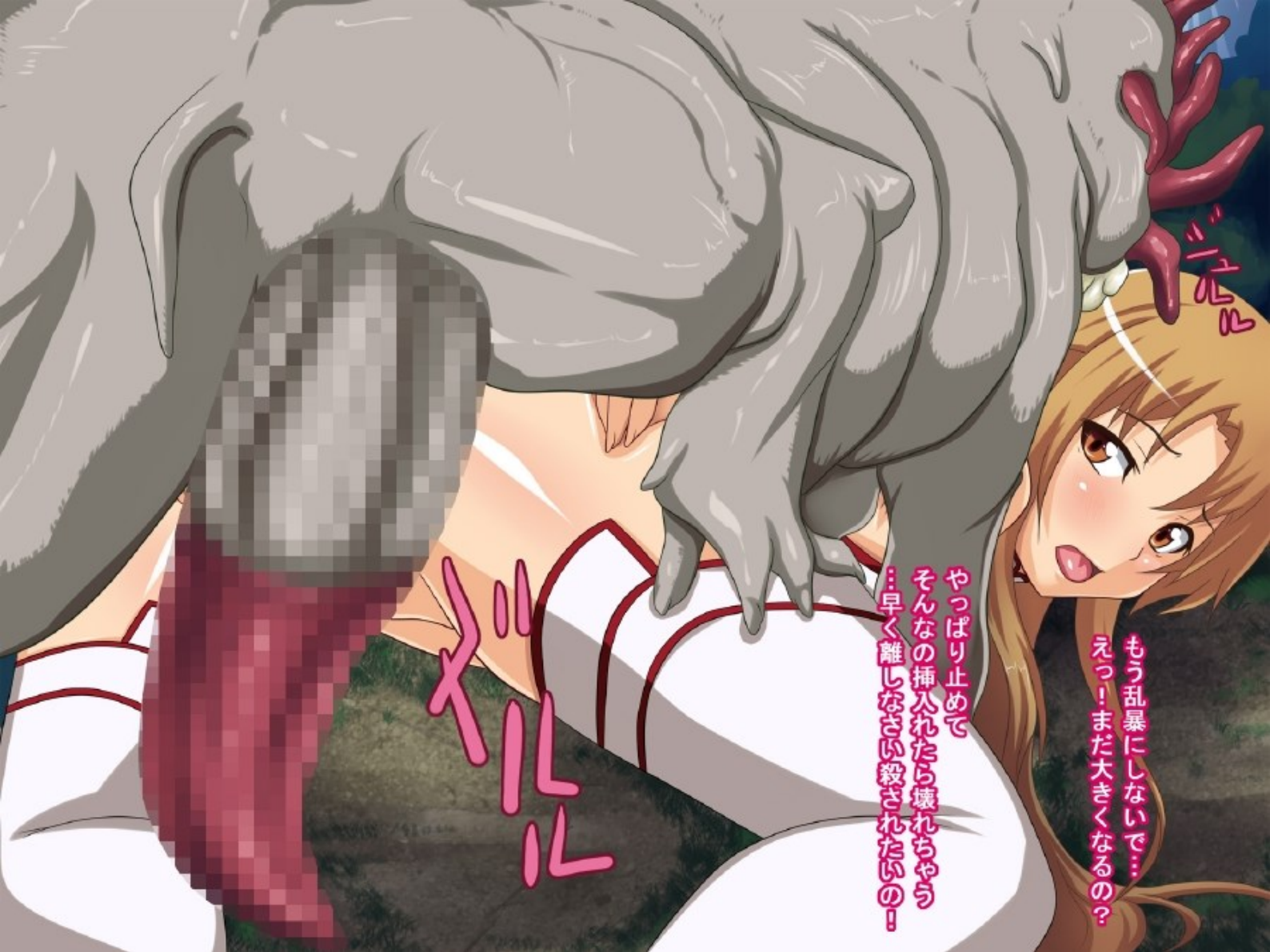
トドメをする時に自然とモンスターの股間に目がってしまった

「お、大きい…あれを入れたら…ごくっ」



は、早く挿入れなさい！
でないと殺すわよ

…わ、私を気持ち良く
させられたなら
殺さないでいてあげる



もう乱暴にしないで…
えっ！まだ大きくなるの？

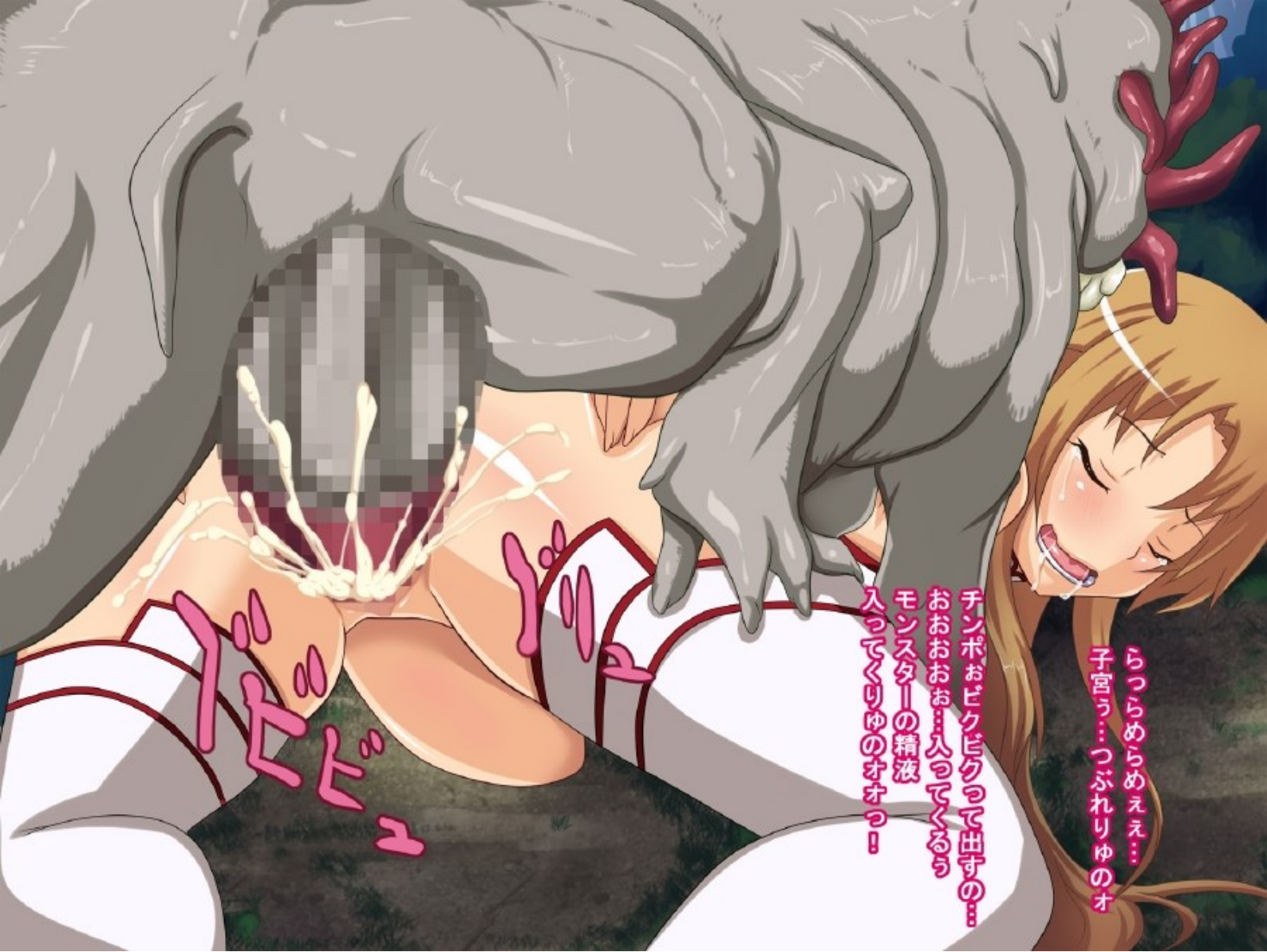
やっぱり止めて
そんなの挿入れたら壊れちゃう
…早く離しなさい殺されたいの！

キルル
キルル
キルル



ひがあああああ…
入ってくるうう
…お腹…破れりゆ…ああ

おおおおおおお
…はっ激し…すぎ…
…
…



らっらめらめええ…
子宮う…つぶれりゆのオ

チンポおビクビクって出すの…
おおおお…入ってくるう
モンスター…の精液
入ってくりゆのオオっ！

くわっ
びゅ



おほ♡

おほおおお…
気持ちいい…
陸出し…気持ちいいよお…

んっ…おおおっ…
せ、精液イ…
とまりやないい…
凄いい…気持ちいい…
…おおおおおおっ…

おほ♡

おほ♡

おほ♡



くうっ好きいつ...
これえっ...もっとおっ...

すげー声がすると思って
来てみたらなんだこれ？

あれ？

こいつ閃光のアスナじゃねえ？

手んぽおもっとおっ

へへへっ

そう言うことなら
犯してやるぜ

おまほり

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



おお：スゲっ！

こいつの膣中ウネウネしてやがる

ズルいぞ：俺にも入れさせろよ

俺はしゃぶって貰おうかな

グハッ

グハッ



んっふ…あっむうっ…
んぢゆるれるろっ
…すずすぢゆるる

こいつチンカスを喜んで食べてるよ

んっむっぢゆるる
…腐ったチーズみたいでえすすぢゆる…
口中に広がってんっんぢゆるぶぶ…
こっちのチーズは熟成して…おいひい

しゅぷ

しゅる

ぐんぱ

んっ



んほほおお…らめえ精液
…おほおほおおおオッ…おんっ

精液飲みながらイッてやがる
ククククっ

オマンコもお…あひらい
チンポ汁しゅっおっ…

チュウ

ジュウ

グッ

グッ



おほおっ...おっ...んほおおおおお

ぎやはははは
すげえだらしないアへ顔!

んぐうっ...ああひいっ...
いっばいいオス汁の匂い
いっばいいっ

トロ

トロ

トロ!!

んへっ…テンポおっ…
いっばいっばい…もっとおっ…

その女は俺に預らせて貰おうか

へへっ

クラディールさんの
頼みなら断れないな

アスナ様…壊れるぐらい
犯してあげますよ…
その前にやって
欲しいことがあります

—数時間後—



「キリト君ただいま」

「おかえり今日は早かったんだな」

アスナは無言で台所に向かった

「キリト君美味しいお茶が手に入ったから淹れるね」

目の前に出された黒く濁ったお茶を飲んだ



おかしい…身体が痺れて…

「ア、アスナ…お茶に…なにを…」

ニヤリと笑うアスナの顔に寒気がした

「ごめんね…キリト君」





アスナ…これは…説明してくれ

ごめんねキリト君！
こうしないと極太デンプラ買えないの

な、何を言ってるんだ



わからねえのかよ
お前の粗チンじや
この女は満足しないんだとよ

嘘だよな…アスナ!

ごめんね、キリト君の事は好きよ
これは誓ってもいいでも
あっあああひあ
チンポお挿入ってえッ!

心に



や、止めてくれ

キリトだっけ？

大きな声じやねえと聞こえねえよ

まあ聞こえても止めねえけどな

：ほら膣中に射精すぞ

んはぁおおおッ！

私の膣に射精してえっ…んおお

グッ
グッ
グッ

グッ
グッ
グッ



おおおんおっ
チンポくるっ孕むっおおほおおっ

何度でも射精して

お前を満足させてやるよ!

この男とは何処が違うのか

言ってみろよ

んひいひいっ!!

キリト君は一回出したら

終わっちゃうのお

淫乱なアスナはそんなのじゃ

満足出来ないのお!!

クラテイル様の

極太チンポのほうがいひいひいっ!!



まだまだやれるが
俺ばかり楽しんだら
フエアじゃないよな…
この男に続きをやって貰えよ
…ただしもうこのチンポは
一生お預けだ
選ぶのはお前だ

アスナ行くな！
こんなワケのわからない男より
俺が必ず満足させてやる…
頼む行かないでくれ…

キ、キリト君…
ごめんね…私もう戻れないよ…
今でも愛している…さようなら

「なにもしたくない…アスナ、アスナあああああ！」

「キリトいるか？いるなら返事ぐらいしやがれ…まあなんだ、
これを血盟騎士団の団長から預かった
お前に渡せたとよ…ちゃんと見ろよ、わかったか？」

故買屋エギルは困った表情でクリスタルを俺に渡した
俺が無視していると無言で去っていった

「…これは記憶結晶…見ないわけにはいかないか…」





ア、アスナ!

やあキリトくん久しぶりだね
おっと挨拶は抜きにしよう

ヒースクリフ!

単刀直入に言うと私が茅場晶彦だ!
このゲームに君達を閉じ込めた!
そして彼女が変わり果てた姿に
なったのは私が原因だ!

ここまで理解したかな?
では、アスナくんを助けたければ
この映像の何処かにある場所を指定した
是非とも目を凝らせて確かめてほしい



ん、んん…んっ…
ぶぐぐ…ぐぐぐぐぐぐ

くそっ！
アスナのこんな姿見たくないが…
回りくどい事をしやがって
俺に意地でもこの映像を見せたいのか



私がキリト君を裏切ったから
罰が当たったのかな？
キリト君と過ごした日々が
私がこんな姿になっても頑張ってる

アスナ！アスナ！
どんな姿になっても
俺はお前を愛してる



ひっ！お、おおんっ、か…ほおおおっ！
いれらりえてイクっ！
おっ、おっおっ…いぎだくなっひのにっ
あああああああ！

クソ何処だ何処に場所が映ってるんだ！



あ、んんんん、おっきい
おおぎいのおおおおッ！

あんひっ…へあっへあっ！
とまらにやいっ…やっ、やあっ！
まだあイツく…いへっ！

ドッ
ドッ
ドッ

ドッ

ドッ
ドッ
ドッ



く！お、おっほ！
で、でっちやう…ほお、おほおおッ！

む、むっり…75層ボスの部屋で待つ…
イヤだ…こんなのむっり…助けてキリト君！

今行くアスナ待ってろ！

47
345

エイ

ウ

ウ

カ
キ

カ
キ

ド

ウ

「茅場晶彦！」

「私を倒せばゲームクリアだ
アスナ君の身体も元通り、現実世界に帰れる」



「何故、俺を…イヤ、アスナにこんな事をした…」

「君が二刀流のスキルを手にした時から
この結末は決まっていた…さあ死合おうかキリト君！」

「ごふっ…見事だ」

「俺が勝った…のか？」

「敗者は去るとしよう…今この瞬間こそが私の描いていた…」



「キリト君！」

「アスナ！」

「もう身体が消える…これは強制ログアウト」

「私の本当の名前は結城明日奈！キリトくんの名前は？」

「俺の名前は桐ヶ谷和人！絶対に君を見つける！現実世界で会おう」



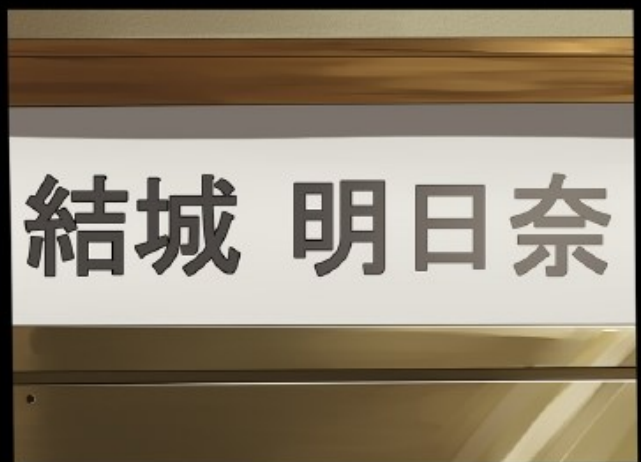
「うん…いつまでも待ってる」

現在世界に戻って真っ先に俺は結城明日奈を探した

エギルの力を借りて結城明日奈が入院している病院に着きとめた

アスナの精神はまだゲーム内に閉じ込められているらしい

今日は初めて結城明日奈に面会が許された





なんだ君は？

お前こそ誰だ！
俺の明日奈から離れる！

ああ君が英雄のキリト君か...

正正正正

正正正正

止進

お前こそ誰だ！
俺の明日奈から離れる！

お前こそ誰だ！
俺の明日奈から離れる！

正正正正
正正正正
正正正正

お前こそ誰だ！
俺の明日奈から離れる！

お前こそ誰だ！
俺の明日奈から離れる！



射精すよ明日奈…くっ！

てめえ意識不明の明日奈に
何してやがる

おらお前…この小僧を押しさえとけ



無能な君に説明してやろう
僕の名前は須郷この娘の夫だ!
くくくっ...嘘ではない
ほらクリトリスに結婚指輪があるだろ

めえ殺してやる! 離せよ

正正正
正正正

止進
アヒル
開

正正正
正正正
正正正
正正正

オレが
3

ガッ
ガッ
ガッ

ガッ

りキガッ

肉

止



君がゲーム内で何を約束したかは知らないが邪魔者は君なんだよ。そう思うだろ明日奈？

~~~~~

明日奈も帰れと言ってるよ...もう二度と来ないでくれるかな？ああ出産祝いには呼んでやるよ...名前はそうだな...英雄の名前のキリトと名付けよう

グッ  
ズッ  
ストップ

トイレ

ストップ  
ストップ  
ストップ  
ストップ  
ストップ  
ストップ  
ストップ  
ストップ

いつ帰ったかもわからない、もうどうでもいい

「お兄ちゃん入るよ」

顔が涙で真っ赤に腫れ上がったキリトを妹が抱きしめた

「何があったかは聞かないけど私はお兄ちゃんの味方よ」

俺は妹の胸に顔を埋めた  
固い金属が顔に当たったが今はどうでも良かった

**END?**